

富士河口湖町大石のNPO法人「フィールズ」(横田聖美理事長)は7月から、町内の宿泊施設などから出る生ごみを回収して分解し、飼料や肥料として再利用する取り組みをスタートさせる。処理機で生成した飼料や肥料は、町内の農家や畜産業者が活用、そこで生産された農畜産物を計画に参加するすべての宿泊施設などに供給することで、町内にリサイクルの「輪」を構築する。

NPO法人 フィールズ 回収し肥料化へ

生ごみ 町内でリサイクル



生産野菜、宿泊施設で食材に

計画によると、参加する宿泊施設などには生ごみ専用のプラスチック容器を置き、町内の業者が回収する。生ごみの処理機を設置する場所は未定だが、県内有数の酪農地帯である同町富士ヶ嶺地区を軸に検討中。同NPOは「生活環境や水源への影響に十分留意して設

置場所を決めたい」と話している。生成した飼料・肥料は町内の畜産業者や農家が使用する。生産した肉や野菜などを生かした料理を町内の宿泊施設などで観光客に振る舞い、地元産の食材をアピール。特産品の開発にもつなげるのが目標だ。

取り組みは「食品残さリサイクル計画」と銘打ち、二〇〇五年には先駆的な活動を行うNPO団体などを国が助成する「市民活動団体等支援総合事業」の対象に認定された。これまでに町内の宿泊施設関係者向けの説明会を開き、同NPO側が飼料や肥料がでるまでの流れなどを解説した。現在は七月一日からの事業開始を目指し、事業への参加希望者に生ごみの排出量などを聞くアンケートを進めている。

町内の宿泊施設関係者らに「食品残さリサイクル計画」について説明するNPO法人「フィールズ」の関係者

＝富士河口湖町内